

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00977

研究課題名(和文) 琉球士のライフコースの解明を主題とした琉球家譜の研究

研究課題名(英文) Research on genealogies with the theme of elucidating the life course of Ryukyu kingdom officials

研究代表者

武井 基晃 (Takei, Motoaki)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：00566359

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：成果A(比較家族史)：近世琉球の土の家族制度を主対象とし、土の男子個々人の履歴史料から、土の一門宗家の代々の継承者にはどのようなライフコースあったのか分析する方法を検討しました。当初の計画以上に東アジア各国の社会の家族史研究を専門とする研究者との議論を深めることができました。

成果B(民俗学)：Aをふまえて、近世琉球土の一門の子孫に当たる今日の沖縄の人々に対してフィールドワークを重ねました。その成果から子孫たちの思考と行動について、1. 子孫たち自らの手による自分たちの祖先の歴史にかかる表象行為、2. 子孫と祖先の交渉の場としての祖先祭祀の2点から明らかにしました。

研究成果の学術的意義や社会的意義

比較家族史学会での2回(2020, 21年)のシンポジウム報告(「琉球王府の家譜制度と儒教 新たな姓・家系の成立の仕組みを中心に」、「位牌継承を儒教から考える」)の成果が書籍として刊行(『東アジアは「儒教社会」か? アジア家族の変容』小浜正子・落合恵美子編 京都大学学術出版会 2022年)され、第6章「姓の継承・創設 近世琉球の土の制度と、近代沖縄のシジタダシ」を分担執筆しました。

近世琉球社会における姓・家系・ライフコースや女性の役割について、琉球の家譜(系図)資料に記録された個々人の履歴にもとづき東アジアの家族研究および儒教研究の文脈で考察し、近世から近代初頭におよぶ論点を整理できました。

研究成果の概要(英文)：Outcome A (comparative family history): The main focus is on the family system in the Ryukyu Kingdom after the 17th century. The resumes of men who Ryukyu kingdom officials as sources, I have analyzed life course of generational heirs of kingdom official's families. More than originally planned, I could discuss with the researchers specializing in East Asian comparative family history.

Outcome B (folkloristics research): I did field work for Okinawans Today who are the descendants of Ryukyu kingdom officials. Based on these results, the following two points were discussed. 1. Their own acts of representation about history of their ancestors, and 2. Ancestral rites as a place for Ancestors and Descendants to relate.

研究分野：民俗学

キーワード：家譜 琉球 ライフコース 比較家族史 祖先祭祀 家系の継承 姓の創設 東アジアの儒教社会

1. 研究開始当初の背景

本研究は、家族史・歴史人口学のライフコース研究(落合恵美子[2006『徳川日本のライフコース 歴史人口学との対話』]、平井晶子[2008『日本の家族とライフコース 「家」生成の歴史社会学』]など)における、近世期の琉球王府に関する研究上の欠落を補うものです。琉球王府の家譜から琉球士(=琉球王府に士として仕えた者)のライフコースに焦点を当て、琉球士の個々人の人生を明らかにしようとする試みです。そこから読み取れる出来事が、当人たちの人生の中でいかなる意味があったかについて考察を深めます。

個人という対象は、国家レベルの事象と比べ、歴史研究において顧みることが史料上の制約などから難しいものです。しかし、本研究の対象とする琉球王府時代に関しては、琉球士 琉球王府に仕えた官吏の履歴の集成である家譜という最適な史料があり、そこから得られた4つの視点(通時的・共時的・比較的・特論的視点)から、近世琉球の身分制下における琉球士のライフコースを明らかにできます。

本研究が依拠する琉球家譜の研究は、第二次世界大戦中の沖縄戦の戦災による焼失を免れて残った家譜の収集・保存、複製の閲覧、活字化の事業から始まり、田名真之[1992『沖縄近世史の諸相』]を中心に家譜の成立が近世琉球の身分制の成立と絡めて明らかにされてきました。しかしその一方で、そこに蓄積された琉球士の個人史への着目は研究者の間でその重要性が単発的に指摘されるばかりであり、むしろ琉球士の直系の子孫に当たる個人・団体による成果公開の方が進んでいる面さえあります。なお、家譜は沖縄戦で焼失したとはいえ戦後那覇市などが発見・保管している資料は十分あり、効率的に対象を選定(首里士・那覇士の譜代・新参、外交(華語・英語)担当の士など)して実施することが求められます。

2. 研究の目的

本研究は、琉球家譜に蓄積された琉球士のライフコースの解明を主題に据えた上で、今日の沖縄県において昨今益々高まる琉球家譜に対する関心をふまえて、史料が有する生活社会内での文脈に着目してその価値・役割の解明を進めます。

第1に、早い段階で視覚資料化の方法を完成させ、そこから琉球士の個々人のライフコースを明らかにし、家族史・歴史人口学のライフコース研究に貢献するとともに、近世期の琉球士という研究上の欠落を補うことを目指します。第2に、同一フォーマットによる分析の実例として、琉球王府時代末期における西洋の異国船への対応が通事たちにとっていかなる人生の転換点となったかの考察を継続し深めます。第3に、琉球史・日本史・東アジア史の歴史的文脈・外交史の中に位置づけることを目指します。外交の現場に関わった個人の履歴を重ね合わせることで誰が、何をしたのか、またその履歴が外交上どの段階に関わるものだったのかを明らかにできます。第4に、得られた成果を琉球士の子孫をはじめ調査対象者に積極的に還元し対話的共有を目指すとともに、現代の当事者によるチェックを受ける機会とします。

3. 研究の方法

そのために必要な琉球家譜史料の独自かつ創造的な分析・提示方法として、家譜資料の視覚資料化を採用します。これは研究代表者が考案したフォーマットに基づくもので、視覚資料化した琉球家譜の特徴としては、一目でわかるかたちで琉球士の個人の人生、年月の経過と琉球士のライフコース(見習い期間から奉職・知行・相続・海外渡航などの履歴情報)を示すことが可能となります。しかも個人史の解明だけでなく、同時代を生きた数代・複数人を併置できることから家族史を見て取れることも大きな特徴です。さらに家族史にとどまらず、同一フォーマットで表示することで琉球史における琉球士の個々人の人生と活躍を世代・一門を越え把握できます。これにより同一フォーマットで様々な琉球士(上層部~下級官吏、外交・漢籍・通訳の専門家、士に取り立てられた新参など)の人生(履歴、昇進、知行、相続、清・日本への派遣など)を比較することが可能となり、琉球士の様々なライフコースを効果的に分析できます。

4. 研究成果

比較家族史学会のシンポジウム報告「位牌継承を儒教から考える 沖縄の4つの禁忌を中心に」(比較家族史学会秋季大会シンポジウム「東アジアはどこまで「儒教社会」か? チャイナパワーとアジア家族」2020年10月24日(土)、オンライン開催)および「琉球王府の家譜制度と儒教 新たな姓・家系の成立の仕組みを中心に」(比較家族史学会春季大会シンポジウム「東アジアはどこまで「儒教社会」か? チャイナパワーとアジア家族」2021年6月19日(土)~20(日)、オンライン開催)の成果をもとに、「姓の継承・創設 近世琉球の士の制度と、近代沖縄のシジタダシ」を執筆し、刊行されました(小浜正子・落合恵美子編『東アジアは「儒教社会」か? アジア家族の変容』京都大学学術出版会、分担141~167頁、2022年12月)。このほか南西諸島の歴史・文化の専門家として依頼された原稿が刊行されました(「南西諸島の人生儀礼」関沢まゆみ編『講座日本民俗学 4 社会と儀礼』朝倉書店、分担191~203頁、2021年12月。「南西諸島の年中行事 研究動向と着眼点」新谷尚紀編『講座日本民俗学 3 行事と祭礼』

朝倉書店、分冊 138～149 頁、2021 年 10 月)。このほか、「家譜にみる琉球士のライフコースと年齢 長命あるいは早逝にともなう孫による継承を中心に」(比較家族史学会、2023 年 6 月 24 日(土)、関西大学)、「家譜を書き残す子孫たち 沖縄の自費出版・私家本を資料に」(歴史人類学会第 43 回大会、2022 年 11 月 26 日(土)、オンライン開催)など研究報告を重ね、また「沖縄の墓前食 首里の玉陵・那覇の久米村系の清明祭および石垣島の十六日祭の新型コロナ禍直前の調査」(『国立歴史民俗博物館研究報告』241、265 - 283 頁、2023 年 4 月 28 日)、「近世の系譜と今日の位牌」(『葬墓制からみる近世琉球社会 祖先と子孫の対話 報告集』南島文化研究所、25～29 頁、2022 年 2 月)、『林松姓系図家譜 大宗實盛』2020 年 11 月 (https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/2003169/files/20K00977_takei-2020.pdf)など、沖縄でのフィールドワークの成果を公開しました。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 武井基晃	4. 巻 19
2. 論文標題 沖縄の清明祭のお供えと、墓の今後	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 比較日本学教育研究部門研究年報	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井基晃	4. 巻 234
2. 論文標題 葬儀における難儀の顕在化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 395-413
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 4件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 武井基晃
2. 発表標題 家譜を書き残す子孫たち 沖縄の自費出版・私家本を資料に
3. 学会等名 歴史人類学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武井基晃
2. 発表標題 清明節の墓参を中心に 新暦と旧暦
3. 学会等名 お茶の水女子大学国際日本学シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武井基晃
2. 発表標題 琉球王府の家譜制度と儒教 新たな姓・家系の成立の仕組みを中心に
3. 学会等名 比較家族史学会春季大会シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武井基晃
2. 発表標題 近世の系譜と今日の位牌
3. 学会等名 南島文化研究所第43回南島文化市民講座「葬墓制からみる近世琉球社会 祖先と子孫の対話」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武井基晃
2. 発表標題 字誌が書かれる時・読まれる時
3. 学会等名 日本民俗学講習会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武井基晃
2. 発表標題 位牌継承を儒教から考える 沖縄の4つの禁忌を中心に
3. 学会等名 比較家族史学会秋季大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武井基晃
2. 発表標題 復帰前の集落の水の記録 『沖縄の民俗資料』(増補版)から
3. 学会等名 国立歴史民俗博物館基幹研究「水をめぐる生活世界 実用と信仰の視点から 」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武井基晃
2. 発表標題 烏山頭ダムと八田與一
3. 学会等名 国立歴史民俗博物館基幹研究「水をめぐる生活世界 実用と信仰の視点から 」
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 小浜 正子、落合 恵美子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 386
3. 書名 東アジアは「儒教社会」か？	

1. 著者名 関沢 まゆみ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 社会と儀礼	

1. 著者名 新谷 尚紀	4. 発行年 2021年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 行事と祭礼	

1. 著者名 小川直之、新谷尚紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 244
3. 書名 方法と課題	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------